




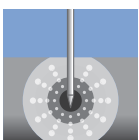
土壤くん蒸剤

- 土壤病原菌・線虫・雑草種子を効果的に防除
- 有効成分が土壤中でガス化し拡散、安定した効果を発揮
- 水溶性液体なのでジョウロ・灌水チューブでの処理ができ、使いやすい
- トラクターに専用散布機を装着することで散布と土壤混和を同時に行える



殺菌・殺線虫・除草、
3つの顔を持つ薬剤。

■NCSの使用法 本剤およびカーバムを含む農薬の総使用回数／1回

処理方法	作物名	適用病害・害虫・雑草名	使用時期	被覆期間	(ガス抜き～植付) 期間	
散布全面処理 (土壌混和) 使用量 ▶原液として30ℓ/10a 希釈倍数 ▶3倍希釈 散布 ▶土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和 	キャベツ	パーティシリウム萎凋病※、根こぶ病	植付14日前まで	7～10日間ビニール等で被覆した後ガス抜き	7～10日後植付	
	はくさい	根こぶ病、黄化病				
	こんにゃく	根腐病	植付30日前まで			
	トマト	青枯病				
		きゅうり	ネコブセンチュウ	植付14日前まで	※の病害虫には、無被覆でも使用可	
		すいか				
		だいこん	ネグサレセンチュウ※			
		ねぎ、わけぎ、あさつき (春播露地栽培苗床)	畑地一年生雑草	は種14日前まで	1～2週間ビニール等で被覆した後ガス抜き	7～10日後は種
	たまねぎ (秋播露地栽培苗床)	は種30日前まで				
散布表面処理 使用量 ▶原液として30ℓ/10a 希釈倍数 ▶30倍希釈 散布 ▶ジョウロ等で土壌表面に均一に散布 	ねぎ、わけぎ、あさつき (春播露地栽培苗床)	畑地一年生雑草	は種14日前まで			
	たまねぎ (秋播露地栽培苗床)		は種30日前まで			
灌水チューブ法 使用量 ▶原液として30ℓ/10a 希釈倍数 ▶ 散布 予め灌水チューブを設置し、ビニール等で被覆する。原液30ℓを水と共に10a当り水量が3,000ℓ(100倍希釈)になるように灌水注入する 	トマト	褐色根腐病	植付14日前まで	7～10日間ビニール等で被覆した後ガス抜き	7～10日後植付またはは種	
	きゅうり	ネコブセンチュウ				
	すいか					
	いちご	萎黄病				
	ほうれんそう	萎凋病	は種14日前まで			
点注処理法 使用量 せんりょう：原液2～3ml/1穴 きく、花き類：原液3～5ml/1穴 	せんりょう	立枯病	植付30日前	耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15cmの穴をあけて薬液を注入し、覆土鎮圧する		
	きく	ネグサレセンチュウ	植付前			
	花き類	苗立枯病				
その他の使用方法 使用量 ▶原液として30ℓ/10a 希釈倍数 ▶3倍 散布 ▶ジョウロ等で均一に灌水後土壌混和	きく	立枯病	植付前	7～10日間ビニール等で被覆		

◎上記作物の他にたばこ、フリージア、あかまつ、すぎ、果樹類、茶、桑、りんどう、カーネーション、芝(目土用土消毒)、すぎ(は種床)などにも登録があります。

△**使用上の注意**

使用前、使用後の注意

- 夏期高温時の使用をさけてください。
- 住宅周辺で使用する場合は、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮してください。
- 他剤との混用をさけ、よく洗浄した器具を使用してください。(クロルピクリン等と混用すると発熱などの危険があります)
- 使用後は、器具を十分水洗いしてください。(金属腐食性があります)
- 開栓後は速やかに使いきってください。長く放置すると、ノズルの目詰まりの原因になります。

土壌の状態をチェック

適した土壌	壤土～砂壤土
適した地温	15～30℃
適した土壌水分	手で軽く握ってくずれない程度(水分過多では効果不足が生じやすい)

※粘土質土壌では、ロータリー耕起を十分に行い、ガス抜き期間・回数を20日・2回以上とする。
 ※砂土では、被覆期間を2週間以上とり、ガス抜き期間・回数を20日・2回以上とする。
 ※15℃以下では被覆期間・ガス抜き期間を長くし、10℃以下では使用しないでください。

灌水チューブ法で使用の場合

- 事前に均等処理に適した灌水チューブの種類や長さを選択し、希釈液が漏れないように水圧、接続をチェックしてください。
- 処理期間中は、ハウスなどは閉めておくことが望ましいが、精密器具等がある場合は天窓などを開け故障しないように注意してください。
- 薬剤処理中はハウス内に入らないでください。薬剤処理終了後は、十分換気した後に入室してください。

△**安全使用上の注意**



- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにしてください。
- 土壌くん蒸処理の際は、吸収缶(活性炭入り)付き防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用するとともに保護クリームを使用してください。
- 灌水装置の取扱いの際には、農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣、ゴム長靴などを着用するとともに保護クリームを使用してください。
- 被覆作業時およびシート除去の際にも、吸収缶(活性炭入り)付き防護マスクを着用してください。
- 皮膚に付着した場合には、ただちに石けんでよく洗い落としてください。
- 万一、薬液が作業衣や靴の内部に染み込んだ場合には、皮膚に付着する前に脱衣し、新しいものと交換してください。
- 作業後はただちに身体を洗い流し、うがいをし、衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- 眼に刺激性があるので入らないよう注意してください。誤って眼に入った場合にはただちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。

農薬の中毒に関する緊急問い合わせ先／公益財団法人 日本中毒情報センター
 つくば中毒110番 029(852)9999(9～21時)
 大阪中毒110番 072(727)2499(24時間)

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水は圃場などで使用してください。
- 防除日誌を記帳しましょう。

製造販売

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

〒100-6110 東京都千代田区永田町2丁目11番1号

山王パークタワー

https://www.corteva.jp/



取扱

本資料は2019年9月現在の知見に基づき、作成されています。